

1 国語について

全国と松山市の調査結果を比較すると、平均正答率は、ほぼ同じ状況でした。

学習指導要領に示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の領域は共に全国平均とほぼ同じ状況でした。

2 分析結果から特徴が見られた問題

(1) 「話し合いの様子」のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

言葉の変化については、いろいろな考え方があふれている。もう一度「資料1」を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことを書きなさい。

「商標」の意味のつらえ方

年代	60年代	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代
商標	50.0	45.0	40.0	35.0	30.0	25.0

(文化庁「令和4年度国語に関する世帯調査」による。)

「話し合いの様子」のA

「話し合いの様子」のB

「話し合いの様子」のC

「話し合いの様子」のD

「話し合いの様子」のE

「話し合いの様子」のF

「話し合いの様子」のG

「話し合いの様子」のH

「話し合いの様子」のI

「話し合いの様子」のJ

「話し合いの様子」のK

「話し合いの様子」のL

「話し合いの様子」のM

「話し合いの様子」のN

「話し合いの様子」のO

「話し合いの様子」のP

「話し合いの様子」のQ

「話し合いの様子」のR

「話し合いの様子」のS

「話し合いの様子」のT

「話し合いの様子」のU

「話し合いの様子」のV

「話し合いの様子」のW

「話し合いの様子」のX

「話し合いの様子」のY

「話し合いの様子」のZ

(2) 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイデアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルを見てもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、(スライド①)から(スライド③)までを読んで、あとの問いに答えなさい。

【村田さんのスピーチ】

私は、「マリブプロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。「マリブプロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募っている。マリブプロジェクトを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、まれに現れたマリブプロジェクトの仮に、心が動いたこともあるのではないのでしょうか。マリブプロジェクトは、前から育てていますが、この活動では、採取した種から育てています。

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。採れた種を蒔くだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

これは、実際に採取したマリブプロジェクトの種です。次のシーズンに学校で育ててみるを目標としたあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、

— 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部がスライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを簡潔に示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 聞き手によって経験が違ふことを考慮して、スライドで補足的情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

2—1—

正答 2

全国正答率 65.5% 松山市正答率 全国正答率をやや下回る。

2—四—イ

下線部を漢字で書く問題

あついに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

正答 暑い

全国正答率 72.1% 松山市正答率 全国正答率をやや下回る。

3—三—(1)

正答 3

全国正答率 40.8% 松山市正答率 全国正答率とほぼ同じ

3 考察

2—1—は、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題です。1と解答した児童の割合が全国平均より高く、伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができなかった児童が多いと考えられます。

2—四—イは、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題です。誤答率が全国平均を上回り、「暑い」という字を「熱い」などと記入した児童が多いと考えられます。

3—三—(1)は、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題です。文章の中から目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり再構成したりすることが求められます。2と解答した児童の割合が全国平均より高く、「人によって言葉の意味の捉え方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う形」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理することができなかった児童が多いと考えられます。

4 これからの学習にあたって

内容のまとまりで段落をつくるためには、書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを絞ることが重要です。このことによって、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄が明らかになります。

必要な情報を見付けるためには、実生活で図表を含む様々な情報に触れた際に、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切です。